

# 空き家リノベーションプロジェクト

建築学科 4年 学生氏名 藤田智之 担当教員：田中智之

## 1. はじめに

本プロジェクトは離島の空き家を活用して島の活性化を図ることを目的としている。具体的には天草市湯島の空き家をサテライトラボとしてリ・デザインし、実際にセルフリノベーションを行うものとする。

## 2. プロジェクト概要

本プロジェクトは、平成25・26年度より活動を行っている。以前から離島活性化計画の一環として、岡山大学地域総合研究センターの前田芳男氏を中心に天草市湯島における空き家のリノベーション計画に取り組んできた。具体的には空き家の実測やリノベーション案の作成及び島民の方々へのプレゼンを行っていた。計画対象とした2軒の空き家のうち、1軒は買い手が正式に決定、もう1軒の物件に関しては実質空き家の状態が依然続いており、本年度はこの1軒の空き家(図1, 2)を対象として取り組んだ。



図1 対象空き家



図2 空き家居間部分

## 3. 現地調査及びエスキース

本年度は前年度の引き継ぎも兼ねて現地調査及び現地エスキースを4班に分かれて行っている。現地でのエスキースの結果、前年度の提案に加えて環境面に配慮した「風環境」、「緑化」、「雨水」という3つのテーマを加え実験住宅を実現することを目標としプロジェクトを進めている。

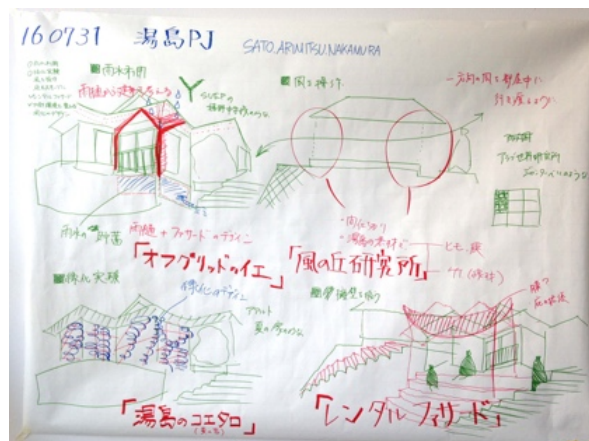


図3 現地エスキース資料(1)

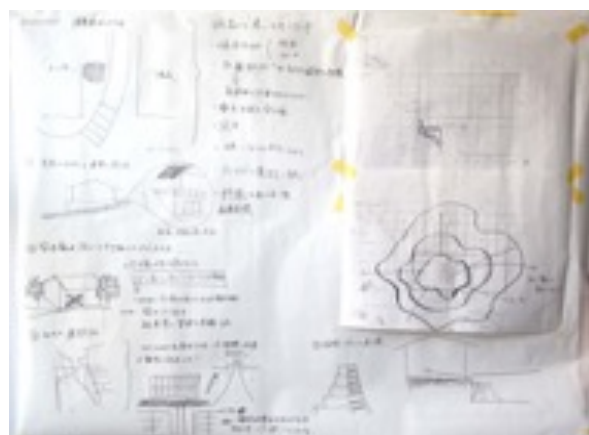


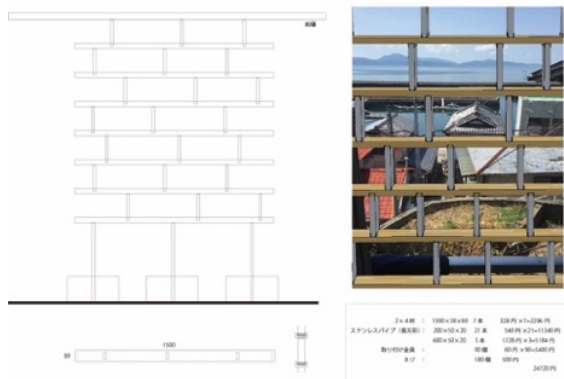
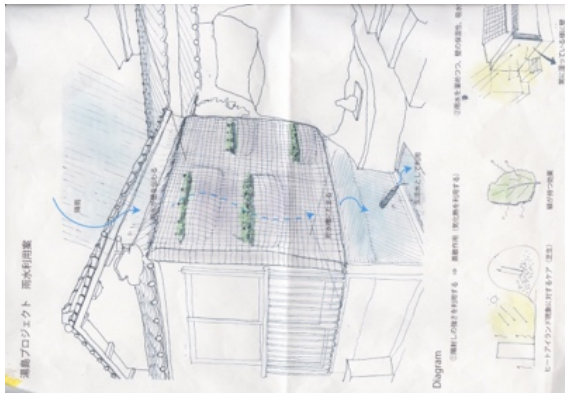
図4 現地エスキース資料(2)

## 4. グループエスキース

現地調査及びエスキースを経て3つのグループに分かれてプロジェクトを進めた。

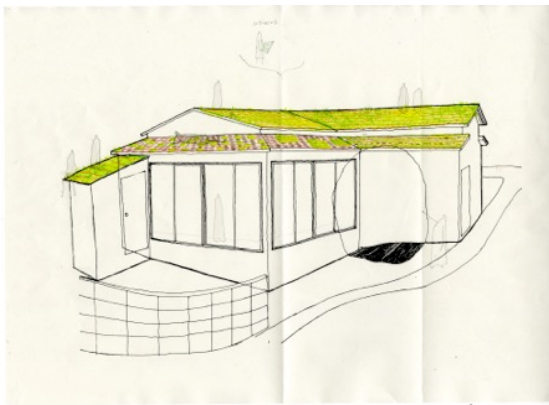
### 4-1. 雨水利用案

雨樋の機能を持った壁という提案を考え、湯島での実現性を考慮した結果、雨樋の機能を持つルーバーを提案している。雨水の貯留による水利用の事も考え、流す段階での雨水の濾過の方法も加えた提案を考えている。



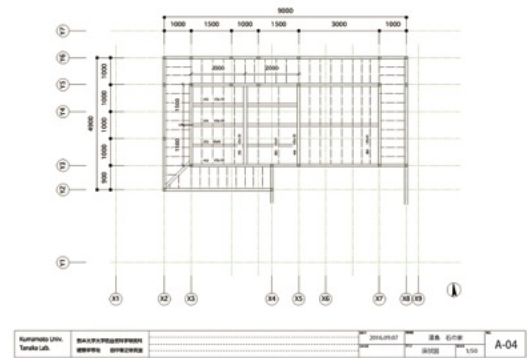
#### 4-2. 綠化案

誰でも気軽に屋根を緑化できる緑化瓦を計画している。緑化班は空き家の軒瓦の実測、湯島に群生する植物の記録を行い、同時に屋根の緑化に使用される製品サンプルを調達している。現段階では、その既製品と比較しながらオリジナルの緑化瓦の検討を行っているという状況にある。



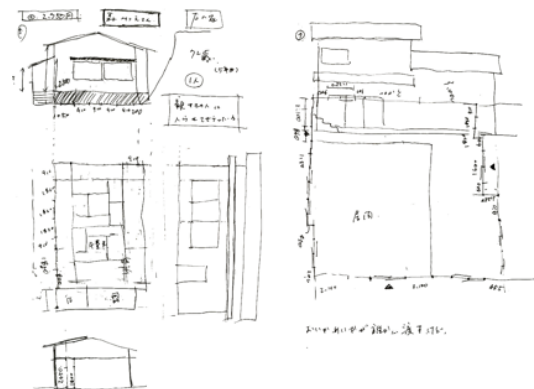
#### 4-3. 風環境案

現在の石の家に吹き込む海岸からの風に着目することで快適な内部空間を提案している。まず、風量と風向きを見るために既存の状態と、床や壁を取り外した状態とで動画を撮影し比較を行っている。又、既存床伏図を作成し現状の状態をより正確に把握している。



## 5. 追加調査

震災発災以後もう一度プロジェクトを見つめ直し、来年度の動きへと繋ぐ必要があると考え追加調査及び島民へのヒアリング調査を行った。対象としている空き家の位置づけや本プロジェクト意義等の精度を上げることを期待している。はじめに、今までの調査を引き継ぎ、追加で調査を行い島全体の空き家発生現状を把握し、ヒアリングや間取り調査を行うことで島内での暮らしを把握している。又、島の高低差を実地調査により記録し地勢モデルを作成している。以上の内容により島内の解像度を上げていくことを期待している。



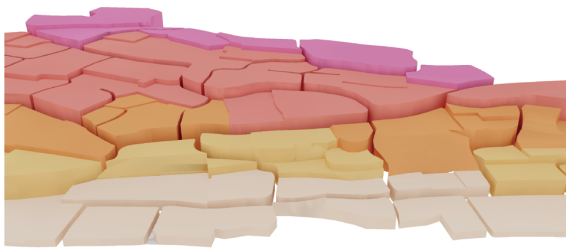


図 11 地勢モデル

## 6. 製作：緑化屋根案

実際に緑化班は実際に屋根に登り体験することからはじめ、スタディを行っている。心地よい風を感じることや、アイレベルでは確認することができない風景を享受することができ緑化屋根により可能性を感じている。

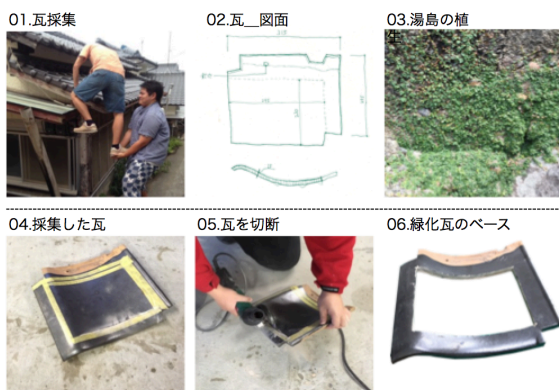


図 12 緑化屋根製作過程

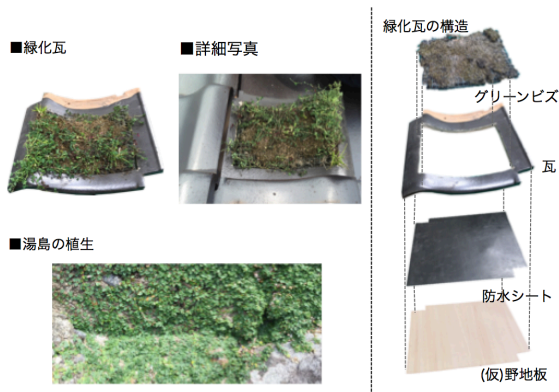


図 13 島内の植生と瓦の構成

採集した瓦をくり抜き緑化瓦のベースを作成している。図 13 は実際に製作した緑化瓦の構造である。製作された瓦は野地板、防水シート、瓦、グリーンビズの順に仕上げていき、簡易的な構造で構成している。

## 7. 製作：簡易スツールで構成するイス

又、前述した瓦とは別に簡易的なスツールを校内で製作し、現地に持ち運びが容易な家具をデザインしている。脚を図 13 のように切り出し、脚の組立により離島でも容易な設置及び施工を実現します。

この家具により島内での作業環境を整え、島民の方々への暮らしの提案等様々なアプローチを現在検討中である。

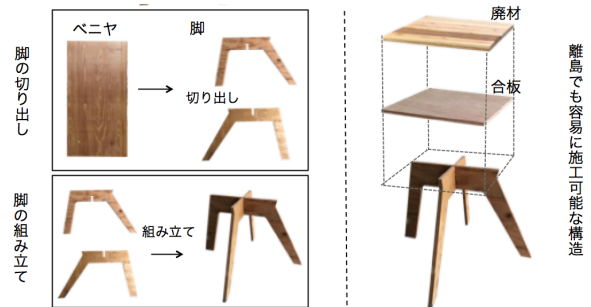


図 13 スツールデザイン

## 6. まとめ

本プロジェクトでは離島という特異な環境での建築の在り方を考える場となった。そのうえで、建築が周囲の環境に対してどの様に振る舞うのかを日常の使い方を自然環境へと変換し取り組んだプロジェクトである。簡易的な家具や環境的デザインによって島型のエコハウスの提案を次年度も続けていきたいと考えており、今回の調査により得られた知見を活かした提案を今後練っていくことを次年度の目標とする。